

(別紙 4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月31日

【評価実施概要】

事業所番号	第4690800034号		
法人名	医療法人 三 徳 会		
事業所名	グループホーム 希 望 の 家		
所在地	鹿児島県 出水市 六月田町 361番地 (電 話) 0 9 9 6 - 6 4 - 8 8 0 2		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯 4 - 2 - 6		
訪問調査日	平成21年5月29日	評価確定日	平成21年6月27日

【情報提供票より】 (平成21年 5月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 2人 非常勤 6人 常勤換算7.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1 階建ての	～ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷 金	有 (円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

(4) 利用者の概要 (5 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護 1	1 名	要介護 2	2 名
要介護 3	4 名	要介護 4	2 名
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 84.7 歳	最低 73 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人三徳会東医院、椎原歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路に面した商業地域に母体医療機関と隣設し、認知症対応型通所介護デイサービスを併設したホームである。敷地の周りには桜やアジサイなど花木が植えられている。利用者本位を大切に、散歩や買い物・ドライブなど外出の機会を多く設け、利用者の楽しみや気晴らしを支援している。サービスの質をより良くしようと評価活動や地域との交流など積極的に取り組み、充実にまい進している。
--

【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	初めての評価のため記入なし。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
重点項目 ②	管理者は評価の意義やねらいについて説明し、毎日のミーティング時に職員と少しづつ話し合い、全項目について取り組んでいきたい内容を引き出し、サービスの質向上に活かしている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
重点項目 ③	定期的に多くの参加者を得て開催している。運営推進会議で課題や意見として、地域住民との交流について話し合い、自治会行事への参加やボランティアとの交流などに繋がり、運営推進会議をサービス向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
重点項目 ④	重要事項説明書に苦情・相談窓口を明記し説明している。苦情があれば家族会を開催し、話し合いをしている。運営推進会議に家族代表も参加してもらい、意見や苦情を表す機会を設けサービスの質向上に反映させるよう取り組んでいる。
	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
重点項目 ④	自治会に加入し、総会や奉仕作業等に参加している。ゲートボールや運動会の見学・保育園児やボランティアの訪問など、地域住民と交流している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人の理念を基に事業所独自の理念を作り上げている。	○	地域密着型サービスとしての役割を考え、利用者が地域の中でその人らしく暮らしつづけることを支える視点が含まれる理念の検討が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で考えた理念であり、ホームの見やすいところに掲示し、常に理念をケアの実践に活かすよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、総会や奉仕作業等に参加している。ゲートボールや運動会の見学・保育園児の訪問など、地域住民と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は職員に評価の意義やねらいについて説明し、毎日のミーティング時に少しづつ話し合い、全項目について取り組んでいきたい内容を引き出し、サービスの質向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に多くの参加者を得て、開催している。運営推進会議での意見として、地域住民との交流について、自治会行事への誘いやボランティアとの交流などに繋がり、サービス向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の主催する毎月の会議において、ホームの状況や取り組みを報告し、意見や助言をもらっており、ともにサービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の様子や健康状態、出納帳の確認などは面会時に報告している。季節ごとに発行するホーム便りに写真や職員の紹介など掲載し報告している。遠方の家族の方には個別に文書や電話にて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情・相談窓口を明記し、入居時に説明している。苦情があれば、家族会を開催し、話し合いをしている。1年目は家族会を年4回開催し、意見や苦情をサービスの質向上に反映させるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は利用者が馴染みの職員の支援が受けられるよう、職員の処遇改善などに努め、やむを得ない離職にも、採用時の新人教育など徹底し異動によるダメージに配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には交替で参加させ、研修報告書を作成し、回覧などで内容を共有するよう努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームの連絡協議会に加入し、連絡や相談等交流している。地域のネットワーク作りも今後の課題として、協働してサービスの質向上に活かそうと取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には見学を勧め、雰囲気に馴染んでもらうよう工夫している。併設のデイサービスを利用してからの入居など、馴染みの関係が築かれており納得して利用している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を人生の先輩として、普段から戦争の話しや昔の歌・保存食作り・おやつ作り等教えてもらいながら、一緒に過ごし、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人・家族から思いや希望を聞き、毎日の会話や関わりの中で、言葉や表情から思いや意向を把握している。本人本位を大切に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望や意向を聴き、主治医や必要な関係者の意見を参考にして、職員の意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを実施し、状態変化や家族の希望があれば、介護計画を見直し、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制による24時間健康管理のほか、通院介助・病院受診・買い物時の外出支援・自宅訪問など、家族と相談し柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する主治医での受診支援をしている。往診や訪問看護・専門医の受診など、適切な医療の受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応指針を作成し、同意を得ている。開設1年目であり、対象者はまだいないが、本人や家族の希望があれば、主治医や必要な関係者・職員が話し合い対応できる体制にある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護については、採用時に誓約書を交わし、徹底を図るとともに、研修や指導を実施している。またプライバシーや誇り・尊厳を大切にすること、呼び名や言葉かけなどの対応等に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事時間やレクリエーションなど、その日の体調や様子を考慮し、利用者本位のペースで支援するよう努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや盛り付け・後片付けなど、できる方にはしてもらっている。買い物に同行してもらい、好きな物を選んでもらうこともあり、一緒に楽しく食事を摂っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日3名ずつ午前中に入浴してもらっている。基本的に毎日入浴が有り、予定の日でなくても入浴できる。体調や希望、タイミングなど合わせて、入浴を支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し・たたみ・整頓・食事の準備・調理・後片付けなど、役割を持ってもらっている。毎日の体操やレクリエーション・花見等、楽しみや気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やウッドデッキでのお茶など、ホームに閉じこもらないよう支援している。近隣のショッピングセンターに買い物やウインドウショッピングに出かけることもある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームを出ると医療機関の駐車場、幹線道路に面しており、リスク回避のため、日中でも鍵をかけることがある。	○	鍵をかけない暮らしの大切さについて全職員が認識し、見守りや連携、徘徊に寄り添う体制作りなど、工夫し、日中は鍵をかけないケアに取り組むことが望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練や消防訓練など実施するとともに、電子調理器や通報装置・スプリンクラーの設置など、災害対策に万全を期している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の摂取状況を確認し記録している。デイサービスの栄養士に献立を確認してもらい、栄養バランスにも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室・廊下とホールを囲んで中庭にテラスがあり、自然光を取り入れてある。ホールからは外の景色が見え、居心地よい共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた寝具や時計・ラジオを持ち込み、お気に入りのポスターやカレンダー・写真を飾り、入居者が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。